

「偉大な神の知恵と知識」

ローマ11：33-36

堀田修一 24・5・5

I 「神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めました（自由意志のある人間が不従順に留まることを許されましたが）が、それはすべての人（イスラエル人も異邦人も区別なく、私たちを含む人々）をあわれむため（神の恵みの選びによる残りの者として、自分の罪を認めて主を信じ救われるため）だったのです」：32。この神の人類に対する究極の目的、奥義、御計画を語ってパウロは、神を讃えずにはられません。本日の箇所の賛美は同時に、ローマ1章から語られてきたキリストの福音（異邦人もユダヤ人も自分の罪を認め主を信じるなら救われる恵み）をめぐるすべての恵みの締めくくりのことばでもあります。

1. パウロは、「すべて他人をさばく者よ、あなたには弁解の余地はありません」2：1。「人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか」9：20と繰り返し人間の罪深さ、高慢さを嘆いてきましたが、ついに神のあわれみという奥義、御計画に対する感嘆の声を上げます→「ああ、神の知恵（神の全知の知識を総合的に動員し、ご自身のご目的の為に最善に判断される知恵）と知識（神はすべてを知り尽くしておられる全知。私たちの事を完全に知り理解しておられる）の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう」：33。神によって造られた人間には、全能の御手で造ってくださった創造者の知恵（知識を正しく判断し用いる知恵）・知識（全世界、出来事、事件の真実、私たちの事をすべて完全に知っておられる）の豊かさを把握することも、諸々の正しいさばき（神の正しい決定）を理解することも、諸々の道（神が人を導かれる道筋、神の摂理の足取り）を極めることが出来ない。但し、何もわからないという意味ではない。神の天からの啓示である聖書の真理を少しも知ることが出来ないなら、主を信じることはできない。「隠されている（神が隠されている人には理解できないことも多い。全知全能の神の知識と人間の知りうる知識には、測り知れない差がある）ことは、私たちの神、主のもの（神だけがご存知の領域）である。しかし現わされたこと（神が人類にプレゼントされたラブレター、啓示の聖書）は永遠に私たちと私たちの子孫のものであり、それは私たちがこのみおしえのすべてのことばを（ご聖霊に頼って）行うためである」（申命記29：29）。神は、聖書を与え、聖霊が理解力を与え、主の十字架の意味を知らせ、主を信じさせてくださる。しかし、偉大な神についてすべてを知り尽くすことはできない（人は神ではないので）という意味。聖書に神とイエス様についてすべてが記されたなら、聖書は膨大になり世界でも収められない→「イエスが行われたことは、ほかにもたくさんある。その一つ一つを書き記すなら、世界もその書かれた書物を収められないと、私は思う」（ヨハネ21：25）。ここでパウロが恐れ敬い賛美する神の知恵と知識の富は、一般的な真理のことではなく、何よりも主イエス・キリストに現わされた神の救いの豊かさのことです→「すべての聖徒たちのうちで最も小さな私に、この恵みが与えられたのはキリストの測り知れない富を福音として異邦人に宣べ伝えるためであり…これは、今、…すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、深さがどれほどであるかを…人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。…神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように」（エペソ3：8, 18, 19）。

2. 「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか」：34。これは、バビロン捕囚からのイスラエルの解放を告げる預言者のことばです(イザヤ40:13,14)。歴史を支配される主の主権的かつ驚くべき救いの計画の告知。全人類を罪の滅びから救うために到来したキリストの出現は、まさに神の「時が満ちて」実現した神の救いの出来事でした(マルコ1:15, ガラテヤ4:4)。福音とはその告知であり、主を信じ主を心にお迎えした者は「主の心を持っています」とIコリント2:16で語られています。
3. 「だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか」：35。これはヨブ記41:11からの引用。ヨブ記では、これに続いて、「天の下にあるものはみな、わたし(主)のものだ」と記されています。つまり、すべてのもの(命、体、生きるための水、光、自然の食物、住むための大地、救い)は恵みとして神から与えられるものであって、まず私たち人間が何かを神に与えてその代価、報いを神から受け取る資格のある人間は存在しないのです。善行による救いの否定。救いの恵みは神の一方的な恵み、あわれみです。ここには神の根源性と絶対性が語られています。これらのことをご聖霊により心と霊的な知性で理解する時、現実と歴史において私たちには理解できない多くの事がありますが、神に絶対的な信頼を置いて生きることができるのです!
4. 「すべてのもの(天地万物、被造物、人間、歴史、出来事)が神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン」：36。すべてのものの根源、生成と発展、その帰結はすべて神にあります。36節の前半を直訳すると、大変美しいギリシャ語で「万物は、彼から、彼により、彼へ」です。すべてのものはその源を神に持ち、神により生成・発展させられ、神に帰って行く。そこに神の根源性と絶対性があります。歴史を支配し、主を信じる人に救いをもたらす神。創造者にして絶対的な主権をもって人々をあわれむ神。この神の御前に、人間はただひれ伏す以外にない。すべては初めから終わりまで徹頭徹尾、神の御手の中にあることだからです。すべてのものとは、ユダヤ人も異邦人も被造物も含まれています。「被造物(自然界・動植物)は切実な思いで、神の子どもたちが現れる(主の再臨により主を信じる神の子どもたちが栄光のからだに変えられる)のを待ち望んでいます。被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには(新天新地の救いの)望みがあるのです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光(救いの完成の栄化)の自由にあずかります」8:21。神はユダヤ人も異邦人も被造物も創造され、神の時の主の再臨により、救いの完成に至らせて下さるのです!ここに、父・子・聖霊なる三位一体の神の壮大な救いの御計画があります。パウロは、万感の思いを胸に、ローマ1章から11章までの神、罪、救い、父・子・聖霊の恵みを三位一体の神への賛美で締めくくります。私たちも礼拝での最後の頌栄を習慣の一つではない、新鮮な感謝と賛美として神にささげましょう。私は、頌栄と祝祷に聖なる緊張と喜びをもって奉仕させていただいています。

II 結び

1. 神の奥義、御計画は、人間の考えとは大きく違います。罪のない神の御子の十字架の刑罰の死、罪深く不従順な私たち人間への神のあわれみの救い。墮落した人間と世界を創造者が捨て去ることなく、罪を認め主を信じる者を救われるご計画。ここに人の思いを超えた愛があり、

究極の神の知恵があります。

2. 私たち人間には、分からないことが山のようにあります。思った通りにならない現実、予想もしなかったトラブル、自分や家族に降りかかる試練。なぜこんなことが起こるのか。神のみこころはどこにあるのだろう。こんな時に、誰よりも神ご自身が私たちを愛し、心配し、忍耐しておられることを深く覚えましょう。分からない事に苦しむのではなく、明らかにされた神の愛、救いに心をしっかりと結び付けましょう。証し。神の時に神の方法で万事を益とされる恵みを信じ、万事を神の御手で導いて下さる神を賛美しましょう。「主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。『わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。一主のことは一天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道より高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い（神は苦しみを通して救い、すべてを益とされる)』 イザヤ55：7-9